

令和7年度 第3回 船越小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月23日（木） 14時10分から15時30分まで
- 2 開催場所 船越小学校 3階会議室
- 3 出席委員 藤本 桂、石川 公子、鈴木 仁、山内 雄一郎、杉山 勝彦、杉原 将吾
権瓶 悠
- 4 欠席委員 永田 真也、山田 佳敬
- 5 オブザーバー 佐藤 拓男（中部協働センター所長）、島 一道（中部協働センター）
青木 雪菜（PTA 副会長）、名倉 久純（前学校運営協議会委員）
- 6 学 校 中村 竜久（校長）、田内 乃理恵（教頭）、美和 泰子（教務主任）
都木 厚知（生徒指導主任）、波多野 祐子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議記録作成者 CSディレクター 波多野 祐子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉原委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 未来を担う「たくましく しなやかな ふなっこ」を育てるために
- (2) いじめ対応の現状について

11 会議記録

司会の美和（教務主任）から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 未来を担う「たくましく しなやかな ふなっこ」を育てるために

校長から、学校教育目標にある「たくましさ」とは、自分の夢や目標に向かって粘り強く取り組む、意志や身体の強さをもつ、失敗してもめげずに課題に取り組む、ぶれずにやり抜く力強さをもつ、ということである、という話があった。そこで、委員の方が考える「たくましさ」について、そして、船越小の子どもがどうすればより「たくましく」なるか、という投げかけがあった。

- ・ 1学年から6学年の間に一度はリーダー的な役割を与え、責任感をもたせることでたくまさが養えるのではないか。（藤本委員）
- ・ 友達とぶつかり合った時、大人を含め、周りの人の力も借りながら自分を励まし頑張る力（打たれ強さ）もたくましさではないか。（権瓶委員）
- ・ 自分の子ども時代の事を思い出すと、「たくましさ」とは、表面の強さだけではないのではないか。（杉山委員）
- ・ 「たくましさ」は、表に出るか、出ないかで、皆が持っているものだと思う。特別活動のイベントとして毎年開催されている「ふなっこオンステージ」での経験でも得られると思う。（山内委員）
- ・ 果敢にやり抜く力というイメージだが、求めすぎて追い詰めてもいけないと思う。
ちょっとした成功体験を積み重ねていくことで、次へのチャレンジへとつながっていく。（鈴木委員）

- ・例えば、自分がやりたくなくてもチャンスを与えられ、やってみると自信になり、積極性やたくましさにつながるのではないかと。（石川委員）
- ・失敗をおそれず、何度もチャレンジする機会を与えたり、雰囲気づくりをすると、そこで得られた成功体験が、自信につながるのではないかと。（杉原委員）
- ・皆さんの意見を聞いて、自信をもたせる場を作り、失敗しても大丈夫という雰囲気づくりをして、教員がサポートするというのが、「たくましさ」につながると思った。（ふなっこオンステージなど）（中村校長）

（２）いじめ対応の現状について

はじめに、生徒指導の都木より、平成 25 年 6 月にいじめ防止対策推進法が施行され、いじめの定義が以前の認識とはかなり変わってきたこと、いじめを未然に防ぐことが大事であり、本校でも年 2 回のいじめアンケートや心と体のアンケート（週 1）を行っていること、いじめ事案があった時は 3 ヶ月継続して様子を見ることなどの説明があった。

- ・継続 3 ヶ月が年度末にかかった時はどうするのか。（藤本委員）
→ 次の年度に引き継ぎをしていく。と都木教諭から回答。
- ・いじめの認識が昔とだいぶ違うと感じ、先生方の対応の大変さを感じる。（杉山委員）
- ・いじめの当該児童をケアするほど被害者意識が多くなるのではないかと、何をもって解決なのか、という疑問もある。（鈴木委員）
- ・人それぞれの価値観があるので、対策が難しいのではないかと。（石川委員）

その他報告事項等

- ・藤本委員より、日頃から地域で長く活動をしてくださっている交通指導隊の方々が高齢になられているので、地域の人で引き継いでいく組織作りの検討を、これからこの協議会でも話していけたら、という話があった。

- ・司会から、次回会議は、令和 8 年 1 月 23 日（金）14 時 40 分から会議室で開催する旨の報告があった。